

都市再生整備計画

さかいでしちゅうしんしがいちちく
坂出市中心市街地地区

かがわけん さかいでし
香川県 坂出市

令和6年3月

| 事業名 | 確認 |
|-------------------------|----|
| 都市構造再編集中支援事業 | ■ |
| 都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金) | □ |
| 都市再生整備計画事業(防災・安全交付金) | □ |
| まちなかウォークアブル推進事業 | □ |

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

| | | | | | | | |
|-------|--------------------|------|--------------------|-----|------------------------------|----|---------|
| 都道府県名 | 香川県 | 市町村名 | さかいで 坂出市 | 地区名 | さかいでしちゆうしんしがいち 坂出市中心市街地地区 | 面積 | 87.9 ha |
| 計画期間 | 令和 6 年度 ~ 令和 10 年度 | 交付期間 | 令和 6 年度 ~ 令和 10 年度 | | | | |

目標
 大目標: JR坂出駅を中心とした「働くまち」と「住むまち」が両立できる「みんなの“ココトよさ”がかなうまち」の実現
 目標1: 心地よく過ごせる「市民の居場所」づくり
 目標2: 「歩いて楽しいまち」の実現
 目標3: 「市民との共創」によるまちづくりの推進

目標設定の根拠
 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針)を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)
 乗降客数が四国で4番目を数えるJR坂出駅や高速道路網など四国屈指の交通利便性や高い昼夜間人口比率に象徴される「仕事の豊富さ」、瀬戸内海や里山などの「豊かな自然環境」という強みや資源を最大限に活かして、「働くまち」と「住むまち」の両立を図り、暮らしの満足度向上を目指す。
 「住むまち」には、満足感や幸福感を感じられるような「場所」「空間」「機会」が日々の暮らしの中に、いかに多く存在するかが重要であることから、若い子育て世代を中心とした多様な世代が日常的に集い交流し、「わくわくする刺激」や「心地よい落ち着き」を実感できるような居場所づくりを行う。そして、それらにおける滞留や回遊から生み出される賑わいなどの効果をまち全体に波及させる。
 JR坂出駅を中心とした中心市街地は、鉄道やバスターミナルといった公共交通結節機能、市役所、総合病院、市民ホール等の公共施設、商店街や企業の支店等を中心とした経済機能、また、幼稚園から高校までの多様な教育機関などの多彩な都市機能が集積している。
 人口減少の状況下において、今後もこれらの都市機能を維持していくとともに、まちなかの回遊性を向上させるため、市民が愛着と誇りをもてる教育文化機能、地域交流機能、子育て支援機能、来訪者のための拠点機能の充実を図る。
 さらに、公的不動産の活用として、移転した旧市立病院の周辺において住民の憩いの場が不足していることから、駅前の公園機能の移設先として公園整備を行い、駅前においては複合拠点施設を整備するなど、中心市街地内部で各公共機能の移転・集約を順次実施することで、都市機能の拡散防止と公的不動産の有効活用を図る。
 郊外部においては、本市全体で見られる人口減少、高齢化の傾向が特に顕著であることから、地域に広がる田園環境や里山等の豊かな自然環境の保全を前提に、健康的で快適な居住生活が続けられる地域環境の形成を図るとともに、日常生活を支える交通利便性を確保するため、道路整備の促進や公共交通の充実等により、拠点間の交通ネットワークを強化し、生活利便性の向上を図る。
 臨海部の工業地域においては、今後の坂出北インターチェンジのフルインター化に合わせた高速道路や坂出港など広域交通網の利便性を活かした物流、生産機能の強化や、クルーズ船の寄港拡大に向けた既存施設の更なる活用を図る。
 なお、市全体では公共施設の再編計画が進められており、各種整備にあたっては、求められる機能が類似する公共施設を再編、集約、複合化し、相乗効果の創出、効率的な整備による財政負担の最適化に努める。

まちづくりの経緯及び現況
 本市は、臨海部の広大な塩田跡地や四国の玄関口としての交通利便性(重要港湾坂出港や坂出北IC)を生かし、重厚長大型の製造業(石油・石炭製品、輸送用機械、化学工業等)を中心に発展してきたまちである。かつては高松市に次ぐ県内2番目の人口を誇り、瀬戸大橋のたもとにある番の州工業地帯には大企業の工場群が立地して、地域の産業全体を牽引し、まち全体に活気があふれていた。
 しかし、その後の重厚長大型産業の衰退は地域の雇用や経済に大きな打撃を与え、モータリゼーションの進展や市外での魅力的な大型商業施設の立地などにより、JR坂出駅を中心とする市街地の吸引力は低下し、かつてのまちの賑わいは失われてきている。
 今後、さらに中心市街地から都市機能や人口の流出が加速した際には、中心市街地の衰退のみならず、自治体経営の存続自体すら危ぶまれる事態に陥りかねないことから、持続可能なまちづくりを目指して、これからのまちづくりの方針を明確化した都市計画マスタープラン及び立地適正化計画を平成30年度に策定した。
 また、これを受けて、令和4年度にはJR坂出駅を中心とした中心市街地再生の方向性を示す「坂出駅周辺再整備基本構想」を策定し、心地よく過ごせる「市民の居場所」づくり、「歩いて楽しいまち」の実現、「市民との共創」によるまちづくりの推進をコンセプトに掲げ、中心市街地の徒歩圏エリアに居心地の良い居場所づくりを行うこととしている。
 この持続可能なまちづくりの実現には、市民や民間事業者等、多様な主体との連携や協働が重要となることから、市民の坂出への愛着と誇りを醸成するとともに、民間事業者等の知恵やノウハウ、資源を最大限活用するなど、公民連携を軸とした行政運営に取り組んでいく。

課題
 ・JR坂出駅を中心とした中心市街地エリアは、各種都市機能が立地しているものの、それぞれに有機的なつながりがないことから、まちに賑わいを生み出す回遊性の創出が必要である。
 ・同じくエリア内には高校、大学附属小学校・中学校など多くの教育施設が集積しているが、放課後の学生の居場所がないと評価されていることから、若い世代を対象とした新たな魅力の創造が必要である。
 ・公共施設の多くが整備から長期間経過しており、厳しい財政状況のなか、都市経営コストを削減しながら市民ニーズを満たすような既存ストックの再編、利活用及び新たな施設整備が求められている。

将来ビジョン(中長期)
 ①坂出市まちづくり基本構想(第5次坂出市総合計画)(平成28年度策定)
 ・市民、民間事業者、行政が相互に連携し「このまちで 働きたい 住みたい 子育てしたい」と思える「市民共創」で取り組むまちの創造
 ・JR坂出駅を中心としたコンパクトな都市の強みを生かす都市基盤の整備の推進
 ・「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市づくりの考え方に基づく都市機能の集約化と公共施設総合管理計画に基づく老朽化施設の再配置・複合化による公共施設マネジメントの推進
 ②坂出市都市計画マスタープラン(平成30年度策定)
 ・JR坂出駅を中心とした交通利便性と生活利便性を維持・増進することにより、求心力の高い都市拠点を創造する
 ・生活利便性の高いJR坂出駅周辺などでは、子どもや高齢者、障がい者などを含めた歩行者の安全性や安心を高めることで、快適な居住環境を創造する
 ③坂出市立地適正化計画(平成30年度策定)
 ・JR坂出駅を中心とした公共交通利便性の向上と歩行者へのバリアフリー化の推進を図る
 ・JR坂出駅周辺には教育関連施設が充実していることから、文化教育機能の強化を図る
 ・JR坂出駅周辺は本市の中心的役割を担う区域であることから、コミュニティ活動拠点施設の整備を進め、コミュニティ機能の充実を図る

都市構造再編集集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

JR坂出駅の利用者は多いが、駅前には人が憩える空間にはなっておらず、そのポテンシャルを十分に活かしきれていないことから、人を中心とした空間へと再編を図り、様々な人が心地よく過ごせる「居場所」を生み出し、歩いて楽しい「まちのリビング」と呼べる市民の居場所実現につなげるため、駅北側に図書館機能や子育て支援機能、市民活動拠点機能等を有する複合拠点施設を整備し、公共交通等と連携を図る。

複合拠点施設には、エリアの持つ特性である交通利便性の高さを最大限に活かし、交流人口の拡大につなげるため、市外から訪れる人が滞在できて、市内の魅力ある情報を得ることができる観光交流機能を備える。

また、イベント利用時にのびのびと活動できる場や子ども、高校生等の若者の憩いの場として利用しやすい駅前空間とするため、複合拠点施設と広場を一体的な空間として整備する。

駅南側においては、各公共機能の移転・集約を順次実施し、都市機能の拡散防止と公的不動産の有効活用を図るため、移転した旧市立病院の周辺住民の憩いの場が不足していることから、跡地において公園整備を行う。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

坂出市立地適正化計画において、中心市街地に「都市機能誘導区域」を設定し、都市機能誘導施設として、現在、誘導区域外に位置する市立図書館の立地を設定している。

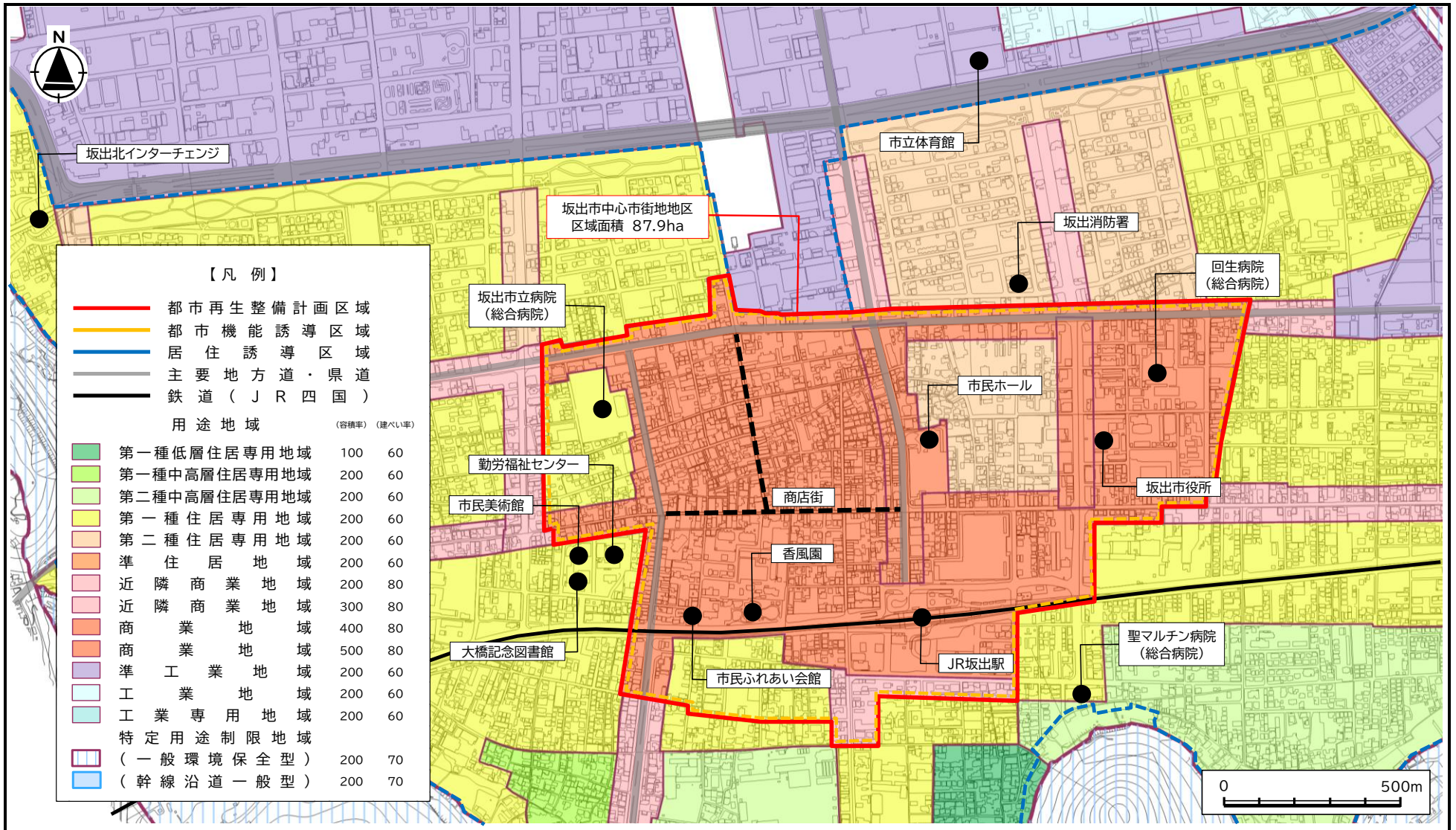
市内外問わず様々な世代にとっての学びの場、交流の場、憩いの場を生み出すため、子育て世代活動支援機能、地域交流機能などの来訪者の拠点となる機能を付加した誘導施設をJR坂出駅前に整備することで、誰もが気軽に立ち寄れる「まちのリビング」と呼べる市民の居場所を創出する。

目標を定量化する指標

| 指 標 | 単 位 | 定 義 | 目標と指標及び目標値の関連性 | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 目標年度 |
|-----------------|-----|-------------------------------------|---|----------|------|------------|-------|
| | | | | | | | |
| 鉄道駅乗降客数 | 人／日 | JR坂出駅における乗降客数 | 駅前拠点施設整備の波及効果として、本市の公共交通網の中核をなす鉄道駅の利用者の増加をもって評価する。 | 8,408人／日 | R3年度 | 9,000人／日 | R11年度 |
| 拠点施設の利用者数 | 人／年 | 図書館を核とし整備する駅前拠点複合施設の利用者数 | 各機能を連携させた施設整備により、市民の居場所を創出することから、拠点施設の利用者数をもって評価する。 | 0人／年 | R3年度 | 160,000人／年 | R11年度 |
| 市内高校生の放課後を過ごす場所 | % | 本市内の高校に通う高校生が放課後を本市内で過ごす割合(アンケート調査) | 文京エリア近くの公園整備や駅前拠点施設整備が、坂出市中心市街地地区における若い世代にとって魅力向上に資する効果を検証する。 | 39.6% | R4年度 | 45.0% | R11年度 |

| 計画区域の整備方針 | 方針に合致する主要な事業 |
|---|---|
| <p>【心地よく過ごせる「市民の居場所」づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民や市内で過ごす人が集まり、くつろぎ、交流することのできる市民の居場所となるような場づくりを行う ・各々が思い思いの時間を過ごすことができ、なおかつ幅広い世代が交流し、共に過ごすことのできる空間の創出 ・既存施設の徒歩圏をつなぎ合わせる位置に存在し、かつポテンシャルを有するエリア(JR坂出駅前、旧市立病院跡地、坂出緩衝緑地、坂出人工土地など)に居心地の良い居場所づくりをおこなうことで、人々が心地よく過ごせる場を生み出しながら、それらの各動線をつなぎ、地域内に小さな回遊性を生み出していく ・各エリアを起点とすることで市内および周辺市町からの来訪者も中心市街地内を歩いて楽しむことができるウォーカブルなまちづくりにつなげる | <ul style="list-style-type: none"> 【基幹事業】 誘導施設：教育文化施設（図書館） 【基幹事業】 高次都市施設：地域交流センター、子育て世代活動支援センター、観光交流センター、テレワーク拠点施設 【基幹事業】 公園 【基幹事業】 地域生活基盤施設：広場 【関連事業】 坂出人工土地歩行者空間整備 【関連事業】 坂出緩衝緑地・東大浜第1公園・東大浜第3公園 |
| <p>【「歩いて楽しいまち」の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行者中心の歩いて楽しいまちを実現することで人々の滞在時間を増加させ、人・もの・ことと出会う機会を創出し、人々がまちを回遊することで、各所で生み出されたにぎわいをまち全体に波及させる ・居場所づくりによって生まれた小さな回遊性を高め、重ねあうことで更なる滞在時間の増加や活動の多様化につなげ、にぎわいをまち全体に波及させる ・それぞれの回遊性が重なりあうことで浮かび上がる駅南の旧市立病院跡地のある文教地区からJR坂出駅を抜け、坂出人工土地、坂出緩衝緑地へつながる動線をまちの中心軸として位置づけ、中心市街地内の回遊や活動を結びつける場とする ・JR坂出駅前については、高い交通結節機能を活かしてウォーカブルなまちづくりの拠点として計画区域における中心とする | <ul style="list-style-type: none"> 【基幹事業】 誘導施設：教育文化施設（図書館） 【基幹事業】 高次都市施設：地域交流センター、子育て世代活動支援センター、観光交流センター、テレワーク拠点施設 【基幹事業】 公園、道路 【基幹事業】 地域生活基盤施設：広場 【関連事業】 坂出人工土地歩行者空間整備 【関連事業】 坂出緩衝緑地・東大浜第1公園・東大浜第3公園 |
| <p>その他</p> | |
| <p>【「市民との共創」によるまちづくりの推進】</p> <p>市民や民間との共創により、持続可能なまちづくりを実現することで、まちの価値向上に努めるとともに、坂出への愛着とコミュニティ、誇りを醸成し、子育て世代や若者が住み続けたいまちをめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> ■持続可能なまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・市民や民間事業者等、多様な主体との連携や協働により、魅力ある持続可能なまちづくりに取り組む (実施例) <ul style="list-style-type: none"> ○さかいで再生会議(令和4年度):子育て、産業振興、都市計画等の関連する分野の有識者や市民、地域金融機関、民間企業の代表など様々な角度からの協議を行い、意見を今後のまちづくりに反映し、つなげていくものとして実施した ■市民との共創 <ul style="list-style-type: none"> ・市民との対話やワークショップ等を通じてニーズを把握し、意見を反映するなど、市民と共に検討を進め、将来のまちづくりの担い手やシビックプライドの醸成につなげる (実施例) <ul style="list-style-type: none"> ○さかいで未来会議(令和4年度):次世代を担う高校生等に、本市の現状について理解を深めてもらうとともに、将来の坂出駅前複合施設や坂出緩衝緑地について、香川大学の協力のもと、グループワークを通じて、高校生の目線から考えてもらうものとして実施した ○まちづくりアンケート(令和4年度):市民のまちづくりに対する意識やニーズを把握し、市民と中心市街地との関わり方、中心市街地の魅力、中心市街地への期待等を把握することにより、再整備に向けた方向性や課題を明らかにすることを目的として実施した ○坂出緩衝緑地の未来を考えるワークショップ(令和4～5年度):坂出緩衝緑地において市民の活動拠点として再整備に向け、周辺住民をはじめとした市民の意見を把握し、市民との共創による公園づくりを目的として実施した ○坂出駅前の拠点施設を考えるワークショップ(令和5年度):JR坂出駅前において「まちのリビング」と呼べる空間を実現するために、駅前に多様な使い方が可能な図書館機能を核とした複合拠点施設を考えるものとして実施した ・施設整備完了後も継続的に市民が関わり、様々な活動を通じてコミュニティを育む仕組みづくりをおこない、そこに暮らす人たちが自らの地域の姿を考えるまちづくりをめざす ■民間との共創 <ul style="list-style-type: none"> ・公共と民間でビジョンを共有することで、人々が訪れたい魅力ある場の創出や施設・広場等の運営に民間事業者等の知恵やノウハウ、資源を最大限活用する ・サウンディング等、民間事業者等との対話を通じて公民連携による取組を進めることにより、民間が担い、力を発揮できる内容を明確化する <p>【関連事業】 坂出北ICフルインター化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、坂出北インターチェンジは本州方面(瀬戸大橋)のみに接続しているハーフインターチェンジである ・現在、四国方面への接続も可能とするフルインター化事業が進められている ・フルインター化により、坂出市が持つ物流機能の更なる強化に合わせて、交通結節機能の強化による交流人口の拡大が予想される ・フルインター化事業の完成に合わせて、接続する県道さぬき浜街道の高松市への4車線化事業も進められており、近隣他市町との連携強化が図られる | |

| | | |
|---------------------------|-------------------|---|
| <p>坂出市中心市街地地区(香川県坂出市)</p> | <p>面積 87.9 ha</p> | <p>区域 坂出市京町1～3丁目、室町1～3丁目、元町1～4丁目、本町1～3丁目の全部、寿町1～3丁目、駒止町1丁目、文京町1丁目、旭町2～3丁目、富士見町1丁目、久米町1～2丁目、入船町1丁目、谷町1丁目、中央町の各一部</p> |
|---------------------------|-------------------|---|



坂出市中心市街地地区(香川県坂出市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

| | | | | |
|----|---|--------|---------------------|------------------------------------|
| 目標 | 大目標: JR坂出駅を中心とした「働くまち」と「住むまち」が両立できる「みんなの“ココチよさ”がかなうまち」の実現 | 代表的な指標 | 鉄道駅乗降客数 (人/日) | 8,408人/日 (R3年度) → 9,000人/日 (R11年度) |
| | 目標1: 心地よく過ごせる「市民の居場所」づくり | | 拠点施設の利用者数 (人/年) | 0人/年 (R3年度) → 160,000人/年 (R11年度) |
| | 目標2: 「歩いて楽しいまち」の実現 目標3: 「市民との共創」によるまちづくりの推進 | | 市内高校生の放課後を過ごす場所 (%) | 39.6% (R4年度) → 45.0% (R11年度) |

